

既存試料・情報を用いる研究についての情報公開

本学では、医学系研究に協力して下さる方々（以下研究対象者）の利益と安全を守り、安心して研究に参加していただくように心がけております。こちらに記載されている研究については、研究・診療等により収集・保存された既存試料・情報を用いる研究で、直接研究対象者からインフォームド・コンセントを取得することが困難であるため、情報公開をさせていただいております。

こちらの文書は研究対象者の皆様に、情報公開をするとともに、可能な限り研究参加を拒否または同意撤回の機会を保障する為のものになります。

なお、研究参加を拒否または同意撤回されても一切の不利益はないことを明記させていただきます。

受付番号	(倫理) 第 2850 号
研究課題	医療観察法指定入院医療機関における精神保健福祉士と社会復帰調整官の連携に影響を与える要因
本研究の実施体制	研究責任者および研究担当者：熊本大学病院 神経精神科 精神保健福祉士 新井英里香 既存試料情報の提供機関：上智大学 総合人間科学研究科 社会福祉学専攻 高山恵理子研究室
本研究の目的及び意義	<p>心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(以下、医療観察法)は2005年に施行されました。医療観察法は「医療観察法対象者に継続的かつ適切な医療並びにその確保のために必要な観察および指導を行うことによって、その社会復帰を促進する」と第一条に定めされており、医療観察法の支援対象者の地域移行を促進する観点が示されています。</p> <p>医療観察法では社会復帰を促進する職種として社会復帰調整官が設置されています。社会復帰調整官は法律成立過程から地域処遇のコーディネーターとして支援対象者に関わることを想定されており、法施行後の研究ではソーシャルワーカーとしてのアイデンティティも持ち合わせていることが報告されています。</p> <p>一方、社会復帰調整官以外の職種でも支援対象者の地域移行に関わるものがあります。ガイドラインの入院処遇の目標と理念を抜粋すると「入院対象者の社会復帰の早期実現」と「多職種のチームによる医療提供」とされており、社会復帰を多職種チームで行う観点が示されています。多職種チームにはソーシャルワーカーとして精神保健福祉士がいます。</p> <p>社会復帰調整官と指定入院医療機関の精神保健福祉士は入院処遇という時期に支援対象者の地域移行を行う立場にあり、連携をとりながら退院支援を行うことが求められています。社会復帰調整官は、当初審判から地域処遇までのコーディネーターとしての役割を担い、指定入院医療機関の精神保健福祉士は入院処遇中のソーシャルワークを行うことから2者の連携を円滑にすることが支援対象者の退院支援において重要と考えられています。本研究では、2者間の連携に影響を与える要因について検討し、的確な連携の形について調査することを目的としています。本研究の意義は医療観察法指定入院医療機関の精神保健福祉士と社会復帰調整官の連携に影響を与える要因を明らかにすることにより、</p>

連携の取れた支援体制を基盤とした支援対象者の安定した生活の示唆を得ることです。

研究の方法

上智大学にて倫理審査を実施し、同意を得た上で取得した全国の医療観察法指定入院医療機関に所属する精神保健福祉士83名に対する悉皆調査の調査票を使用します。

【主要評価項目】

・主要評価項目は共分散構造分析、相関、クロス集計をSPSS、SPSS Amos、Rにて行います。

【副次的評価項目】

- ・副次的評価項目は主要評価項目との相関、クロス集計をSPSS,Rにて行います。
- ・自由記述についてはアフターコーディングまたはテキストマイニングを行います。
- ・成果報告は論文発表にて行う予定です。

研究期間

2023年10月26日～2025年03月31日

調査票の郵送は2021年に上智大学で倫理審査を経て行っています。2021年に取得した既存の調査票情報の解析を行います。

【解析期間】2023年10月26日～2023年1月

【論文作成】2024年1月～2024年7月

【論文投稿】2024年8月～2025年3月

試料・情報の取得期間

本試料情報は上智大学にて2021年7月26日から9月26日に収集済みであり、熊本大学では熊本大学の所属長の許可後、本試料情報の提供を受ける予定です。

研究に利用する試料・情報

【試料】

上智大学にて実施済みの紙媒体のアンケート調査

【情報】

調査項目は基本的属性として、年代、性別、取得資格、医療観察法の経験年数、精神保健福祉士の経験年数、医療観察法の研修受講状況、スーパービジョン体制、所属病院の属性、所属病院の場所、担当ケース数、医療観察法病棟の担当人数について質問しました。

また、医療観察法の日頃の実践と考えについて4大項目、小項目28項目で回答を求めた。28項目は「役割理解」(7項目)「的確な連携」(7項目)「支援対象理解」(8項目)「社会復帰調整官理解」(9項目)である。各項目について4件法で回答を求めました。

調査は上智大学倫理委員会の許可を得て、2021年7月26日から8月20日実施し、その後9月11日に調査の協力依頼を改めて送付し9月26日を締め切りとしました。

【保管方法】

紙媒体：施錠可能なキャビネットにて保管します。

電子媒体：第三者が入手することを防ぐため、パスワードをつけ保存します。

【廃棄】

廃棄時期：研究成果発表後10年を経過した後に廃棄します。

廃棄方法：紙媒体：シュレッダーをかけて廃棄 電子媒体：情報を削除します。

個人情報の取扱い

調査票は匿名で実施しているため、匿名化されているものです。

- ・研究成果に関する情報の開示・報告・閲覧の方法
- ・研究対象者に研究成果の開示やフィードバック：現時点で予定しておりません。
- ・研究対象者から研究に関する情報の開示を求められた場合の対応：論文発表後に回答します。

利益相反について

本研究は、上智大学から提供される情報を使用するため研究費は生じません。

本研究の利害関係の公正性については、熊本大学大学院生命科学研究部等医学系研究利益相反委員会の承認を得ております。今後も、当該研究経過を熊本大学大学院生命科学研究部長へ報告すること等により、利害関係の公正性を保ちます。

本研究参加へのお断りの申し出について

無記名調査であるため、上智大学にて調査票の回答郵送後に同意撤回はできません。

本研究に関する問い合わせ

所属病院 熊本大学病院 精神神経科 新井 英里香

電話番号 096-373-5184